

「人工知能（AI）を用いたバスキュラーアクセス治療適応時期の検討」 についてのご説明

1. 本研究の意義および目的

人工知能（AI）は、ディープラーニング（深層学習）による進化で広く認知され、あらゆる産業の分野で活用が進んでいます。医療業界も例外ではなく、AI等の情報通信技術（ICT）の応用が始まっています。また、近年、シャントエコーと経皮的バスキュラーアクセスインターベンション治療（VAIVT）が普及しており、バスキュラーアクセスの管理は向上しているが、VAIVT介入前に閉塞に至ってしまう症例も多くみられる。本研究では、バスキュラーアクセスの閉塞およびVAIVT治療適応の時期を、人工知能を用いて予測することを目的とします。

2. 研究の方法

過去のカルテをもとに年齢、透析歴、身長、体重、性別、現疾患、糖尿病有無、検査日近傍の除水量、体重増加率シャントエコー計測項目、エコー実施日の前回透析時の静脈圧、透析開始時・終了時の血圧、前回のVAIVT（もしくはアクセス作製）からエコー実施日までの日数、エコー実施日から閉塞（もしくは次回VAIVT）までの日数、VAIVT総回数、VA関連手術回数、定期採血データ（Hb、Ht、TP、Albなど）、定期検査データ（ABI、PWV、心エコー数値、CTRなど）、冠動脈CTによる石灰化スコアなどを調査します。

3. 試料等の保存および使用方法について

記録の保管責任者は研究責任者とします。被験者から提供された研究に関するデータは、個人を特定できない形式に記号化した番号により管理されるため、被験者の個人情報外部に漏れることはありません。

4. 研究全体の期間と予定症例数

研究倫理審査委員会承認後～2030年3月31日の期間で1000例程度を予定しています。

5. 個人情報の取り扱いに関して

研究成果を学会、雑誌等外部に発表する場合には、研究責任者の責任のもと取り扱うこととします。その際は、個人が誰であるか分からないように匿名化した上で発表します。

6. 本研究への参加を拒否する場合

被験者（および代諾者）より参加拒否の申し入れがあった場合は随時可能です。本研究への参加に同意しない場合は、8. 連絡先までご連絡下さい。

7. 研究資金および利益相反管理について

本研究における特別な研究資金はありません。本研究の利害関係については、研究倫理審査委員会の審査を受け、承認を得ています。

8. 研究機関、研究責任者および連絡先

研究機関 社会医療法人川島会川島病院
研究責任者 吉川 由佳里、多田 浩章
連絡先 088-631-0110